

令和 6 年度

教育民生常任委員会所管事務調査

報 告 書

所管事務調査テーマ

- 1 保育、放課後児童クラブの現状と今後の取り組みについて

平川市議会

- 1 調査日時 令和7年1月24日（金） 午前9時から午後2時45分
- 2 場 所 はすね子ども園（尾上地域）
高城こども園（平賀地域）
碓ヶ関中央こども園（碓ヶ関地域）
- 3 出席委員 山谷洋朗 委員長 石田昭弘 副委員長 小野 誠 委員 葛西勇人 委員
齋藤律子 委員 （オブザーバー 石田隆芳 議長）
- 4 説明者 はすね子ども園 小田桐輝雄 園長 保育士2名
高城こども園 木村七子 園長 保育士1名
碓ヶ関中央こども園 鈴木ちづ子 園長 保育士1名
- 5 出席職員 子育て健康課 宮川 厚 課長 樋口徹典 子ども支援係長
議会事務局 浅原 勉 次長補佐 佐藤日向子 主事
- 6 調査内容 保育、放課後児童クラブの現状と今後の取り組みについて
- 7 調査目的 子育てしやすさナンバーワンを目指す保育の現状を調査する
- 8 調査の進め方
地域特性を把握するためにも、平賀地域、尾上地域、碓ヶ関地域のそれぞれにおいて、
放課後児童クラブを併設しているこども園を現地調査することとしました。

9 調査結果

（1）はすね子ども園（認定こども園）

ア 施設建築年

平成11年新築、令和4年大規模修繕

イ 職員数

園長1名、保育士19名、看護師1名、その他職員7名、計28名

ウ 入所児童数（令和7年1月1日時点）

（ア）定員 95名

1号認定15名、2号認定35名、3号認定45名

（イ）児童数 92名

1号認定13名（満3歳0名、3歳7名、4歳2名、5歳4名）

2号認定34名（3歳12名、4歳13名、5歳9名）

3号認定45名（0歳8名、1歳13名、2歳24名、）

エ 教育・保育方針

(ア) 運営方針

- a 子どもの生活環境の如何にかかわらず、差別されないこと
- b 地域の協力、家庭との緊密な連絡のもとに、子どもの最善の利益を考慮し、教育の発展及び福祉の推進を図ること
- c 地域関係機関との連携及び協力のもと、子育て支援に関する人材の活用を図ること

(イ) 教育及び保育理念

- a 教育及び保育にあたっては、子どもの人権や主体性を尊重する
- b 子どもの最善の幸福の為に、保護者や地域社会と力を合わせる
- c 安全と安心を追求し、真心をこめて教育及び保育を行う

(ウ) 教育及び保育の目標

- a 明るく元気な子ども
- b 誰にでもあいさつのできる子ども
- c やさしい心を持ち仲良く遊べる子ども
- d 自然を愛し、豊かな感性を育む子ども

(2) はすねジュニア・キッズクラブ（放課後児童クラブ）

ア 施設建築年

平成30年新築

イ 職員数

はすねジュニアクラブ 放課後児童支援員2名

はすねキッズクラブ 放課後児童支援員1名、補助員2名、計3名

ウ 入所児童数（令和7年1月1日時点）

ジュニアクラブ

(ア) 定員 40名

(イ) 児童数 39名（1年生22名、2年生17名）

キッズクラブ

(ア) 定員 30名

(イ) 児童数 42名（3年生26名、4年生3名、5年生8名、6年生5名）

エ 運営にあたって心掛けていること

- (ア) 子どもが楽しめる場所であること
- (イ) 保護者にとっても利用しやすい場であること
- (ウ) 学年関係なく皆が平等であること
- (エ) 学年関係なく交流できる場であること
- (オ) 集団生活を人に頼らず自分で楽しくする方法を知る場であること
- (カ) 学校のようにルールを守りながら家庭のように自由に好きな遊びを楽しめる場。学校と家庭の間であること

はすね子ども園・ジュニア・キッズクラブにおける質疑応答の概要

問 職員配置基準で規定されている人数よりも、保育士が多いクラスがあるが、その要因は。

答 場所の取り合いで友達をパンチする、いきなり回り出して友達にぶつかるなどの行動を取る園児がいるので、それを制止するための補助要員として多く配置している。

問 職員配置基準で規定されている人数よりも、保育士が必要とのことであったが、近年、発達障がいの子どもの数が増えているということか。

答 保護者の養育環境が以前と変わってきているのもあるのではないかと。我慢する力が育っていない子もおり、集団に無理やり入れる、厳しすぎるしつけをしないようにするなど、その面でも以前とは違う子どもたちになっている。

問 教えても言うことを聞かず、騒いだりするような子については、保護者を呼ぶなどの対応をしているか。

答 問題行動については随時、保護者に伝えている。

問 子どもが病気の時は、保護者に来てもらっているか。

答 電話連絡をしているが、両親の仕事の関係上、即時の対応は難しいものがある。

問 虐待について何か対策は取っているか。

答 体の様子を見る、園長が巡回し、各クラスの話聞く、何かあったときは、市に連絡をするなどしている。副園長、主幹保育教諭、児童クラブ主任も指導に当たっている。

問 放課後児童クラブでの困りごとはあるか。

答 今日学校でお母さんが待っているという日でも、仲間と児童クラブに来る時があり、保護者との連絡をいかにして取るかが課題となっており、児童クラブの入退室管理システムの導入を検討している。



はすね子ども園での調査

(3) 高城こども園（認定こども園）

ア 施設建築年

平成12年新築、平成14年増築

イ 職員数

園長1名、保育士9名、その他職員3名、計13名

ウ 入所児童数（令和7年1月1日時点）

（ア）定員 22名

1号認定2名、2号認定9名、3号認定11名

（イ）児童数 16名

1号認定2名（満3歳0名、3歳1名、4歳1名、5歳0名）

2号認定7名（3歳1名、4歳2名、5歳4名）

3号認定7名（0歳3名、1歳2名、2歳2名）

エ 教育・保育方針

（ア）理念

健全な心身の発達を図り、命を大切にする心を育てる

（イ）教育・保育目標

a 元気に工夫して遊ぶこども

b 明るく話を素直に聞けるこども

c やさしく思いやりのあるこども

d 意欲的に自らチャレンジできるこども

(4) 高城クラブ（放課後児童クラブ）

ア 施設建築年

平成12年新築、平成14年増築

イ 職員数

放課後児童支援員1名

ウ 入所児童人数（令和7年1月1日時点）

（ア）定員 19名

（イ）児童数 17名

（1年生4名、2年生5名、3年生3名、4年生2名、5年生0名、6年生3名）

エ 運営にあたって心掛けていること

（ア）目的

児童が安心安全な場所で心身ともに健やかに育成されることを目的とする

（イ）方針

a 豊かで安全かつ健全な生活の場を提供する

b 異年齢間の集団生活を生かし、思いやりのある豊かな人間性のある子どもに育つ環境の場をつくる

c 大人同士（園・保護者・地域）が子育てに協調し合い、児童が安心と信頼を持

てる生活の場となるよう努める

高城こども園・高城クラブにおける質疑応答の概要

問 放課後児童クラブには、遠くの小学校に通う児童もいるということだが、そのような児童は、高城こども園を卒園した児童ということか。

答 そのようなケースもあるが、弟や妹がこども園に通っているため、遠くの小学校から一緒に通っているケースもある。

問 田植え・稲刈り体験をしているとのことだが、保護者の方も参加できるのか。

答 平日に行っているので、全員の保護者が来られるわけではないが、見に来られる方もいる。

問 外部から先生を呼んで、ヒップホップダンスを習っているとのことであったが、他には何か行っているのか。

答 体操教室、お茶のお稽古、サッカー教室を行っている。体操教室以外の3つは、放課後児童クラブの子どもたちも学べるようにしている。

問 園児の人数確保が必要ということだが、どれくらいの人数が目標か。

答 今年度の4月から定員を32名から22名に下げたが、目標は以前の32名。



園児によるヒップホップダンスの鑑賞



高城こども園での調査

(5) 碓ヶ関中央こども園（認定こども園）

ア 施設建築年

平成27年新築

イ 職員数

園長1名、保育士8名、その他職員2名、計11名

ウ 入所児童数（令和7年1月1日時点）

（ア）定員 21名

1号認定1名、2号認定13名、3号認定7名

（イ）児童数 23名

1号認定1名（満3歳0名、3歳0名、4歳0名、5歳1名）

2号認定12名（3歳5名、4歳4名、5歳3名）

3号認定10名（0歳5名、1歳4名、2歳1名）

エ 教育・保育方針

（ア）運営方針

- a 家庭的雰囲気の中で教育・保育し、児童の精神的安定を図る
- b 規律ある生活習慣の体得を図り、児童により文化を与える
- c 地域との調和を図り、豊かな人間に育てる
- d 妊娠期から就学前までの支援として子育てに関する相談や他の支援機関と連携する等、地域の子育て支援を図る

（イ）教育・保育目標

- a えがおで明るくげんきな子
- b 命の大切さがわかる子
- c えがおであいさつのできる子

（6）関っ子クラブ（放課後児童クラブ）

ア 施設建築年

平成27年新築

イ 職員数

放課後児童支援員1名、補助員1名、計2名

ウ 入所児童数（令和7年1月1日時点）

（ア）定員 19名

（イ）児童数 18名

（1年生3名、2年生6名、3年生5名、4年生2名、5年生2名、6年生0名）

エ 運営にあたって心掛けていること

（ア）指導育成方針

- a 発達段階に応じた健全な遊びやグループ活動を通して、家庭や社会における基本的な生活習慣を体得させる
- b 望ましい友人関係の醸成、相互協力の態度を育成し、社会性や自主独立の精神を養う
- c スポーツや遊びを通して、丈夫な体力作りを図る
- d 家庭的雰囲気の中で生活をさせ、家族関係の重要性を認識させるとともに、音楽、図画、読書等を通して情操の涵養に努める
- e 地域を愛し地域に愛される施設をめざし、地域住民に積極的に開放する

碇ヶ関中央こども園・関っ子クラブにおける質疑応答の概要

問 保護者との連携はどのように取っているか。

答 園児全員が持っている連絡ノートで、連絡を取り合っている。また、降園時に保護者の方とその日あったことなどを話している。

問 利用定員が減っているとのことだが、以前の定員はどれくらいであったか。

答 平成29年は51名、令和2年は41名、令和4年は31名であった。

問 和洋会（平川中央こども園、大坊こども園、碓ヶ関中央こども園）の中で、職員の異動があるのか。

答 職員本人が希望した場合、異動することもある。できる限り職員の希望に沿って配置するようにしている。

問 碓ヶ関地域は災害が多いが、災害対応のマニュアルはあるか。

答 マニュアルは作成しており、碓ヶ関小中学校が避難場所になっている。



碓ヶ関中央こども園での調査

10 調査所感

（1）山谷洋朗 委員長

子育てしやすさナンバーワンを目指す保育の現状を調査することを目的とし、平賀、尾上、碓ヶ関の3地域の認定こども園と放課後児童クラブの視察調査を実施した。

はすね子ども園は、0歳児から5歳児までの92名を抱え、明るく元気で優しい児童の育成に努めている。掲げている目標が示すとおり、園内で学んでいる児童の顔がいきいきと輝いていた。

高城こども園は、入所児童数が16名と少人数であるが、ダンスやサッカー等を外部講師の指導等で学ばせている。殊に、我々一同に披露してくれたヒップホップダンスを一生懸命に踊ってくれた児童たちを見て、日頃の園の充実ぶりを感じることができた。

碓ヶ関こども園では、中学校卒業まで共に生活することになる児童たちの人間関係の重要性を園長の説明から感じ取ることができた。そして、子どもたちの人間関係の構築とともに、保護者同士の良好な人間関係を構築していくことも重要であるとの説明を受け、なるほどと強く感じた。

最後に、3つのこども園を訪問して気づいたことは、それぞれ児童数に違いがあると同時に職員数にも違いはあるが、職員が児童一人一人に対して、慈しむ心を絶やすことなく接していることを肌で感じ、子育てしやすさナンバーワンに着実に近づいて

きていると感じた。

(2) 石田昭弘 副委員長

共通した課題は少子化問題であり、園によっては経営努力だけでは如何ともしがたい深刻な状況にある中、保育士さんは持ち帰り残業、早番遅番を同じ人が担うなど、1人に対して負担が多く、また、少し手のかかる子の保護者との対応に苦慮している様子であり、家庭における子育て環境をなおざりにし、権利を主張し義務を果たさない保護者の現状に、地域社会を担う次の世代に危うさを感じた。

このような課題を抱えていたが、工夫をしながら園の運営をしており、規模の大きい園では、「待遇改善や働きやすい環境」を心がけて、職員に負荷がかからないように余裕をもって配置できる体制に取り組んでいた。

小規模の園では、園児がヒップホップダンスで迎え入れてくれた。この園には園庭にプールがあり、水田も隣接し、園児が田植えや稲刈りを行うなど自然豊かな環境で「のびのびとした保育」を実施。

また、規模の大きなクラブで課題となっているのが児童の入退室。児童と保護者の連絡などを電話で行っているが、連絡がつかず行き違いが生じていた。

過疎地域の小規模クラブでは、全員が卒園児、保護者も卒園者、学校の先生や職員も顔見知り、「家庭的な雰囲気」で運営されていた。

子育てナンバーワンを目指す平川市にとって、「保育士、職員の働きやすい環境」「のびのびとした保育」「家庭的な保育」は大切なキーワードであることを学ぶことができた調査となった。

(3) 小野 誠 委員

保育、放課後児童クラブの現状と今後の取り組みについてを調査事項に、当市の3地域における認定こども園を視察させていただきました。いずれの施設も保育室に冷暖房と空気清浄機を完備し、乳児・1歳児保育室は床暖も設置しとても環境が整っていると感じました。

また、各こども園ともに教育・保育方針を掲げ、子どもたちの健やかな成長を目指し、段階的な学びや遊びからスポーツ活動を展開していました。この活動は何よりも、子どもたちが楽しいと思える活動内容でなければならず、特に幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に、体を動かすことを通して、生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基盤を培うことが大切となっています。スポーツ庁ホームページに幼児期の運動に関する指導参考資料があり、多様な動きの実践例、手軽で楽しい遊びの例等がありますので参考としてくださればと思います。

最後に、発達障がい疑われる行動を取る子どもたちが年々増えてきており、定員以上の保育士が必要との切実なお話がありました。子どもたちには、それぞれの生活環境があり各家庭での育て方があると思います。しかし、現在は暴力による躰は家庭といえどもタブーとなっています。先生方におかれましては、子どもたち一人一人の

細やかな行動観察と、より一層保護者の皆さんとの信頼関係を構築しながら、当市の次代を担う子どもたちの心豊かな成長へと導いてくれることを願い所感とします。

(4) 葛西勇人 委員

就学前の子どもに関する教育と保育を一体的に行う認定こども園は、就労女性が増加する現在においてなくてはならない施設であるが、その最低利用定員は20人以上と定められている。これについて、高城こども園の児童数は16名と定員割れし、碓ヶ関中央こども園も23名と定員は超えているものの、両園とも毎年減少している状況にある。

その原因としては、立地条件や少子化による影響が考えられるが、その対策として、事業者にはサービスの独自性と充実、及びその情報発信力の強化をお願いするとともに、市議会でも若者や子育て世代の移住・定住促進策をもっと立案、提言していく必要があると考える。

3施設とも、保育士の配置、アレルギーを含む給食対応、感染症対策、病気時の対応、虐待防止、登園退園管理、職員のストレス緩和など、子育て環境に問題はないと感じた。ただ、発達障がいの子どもの数が増えているとのことをお話を伺い、保護者の養育環境改善を指導する取組も検討していく必要があると考える。

(5) 齋藤律子 委員

3か所の認定こども園を視察して、少子化とともに、それぞれの園が抱える問題点を知ることができました。

定員数を満たしてはいるが、年齢構成がアンバランスで将来的に園の運営に影響を与える年齢構成になっていることや、入所園児の発達にも差異や問題があり、現場が抱える困難を垣間見ることができました。

子どもの数が減少している2つの園は、少子化が原因となっていることは共通していますが、立地場所の影響も原因しているのではないかと考察しました。

こうした現状から、安心・安全で質の高い保育へのニーズにしっかり応えるために、施設整備をはじめ、保育の提供体制の確保に平川市の保育行政は、子どもたちの発達保障を軸に、しっかりと応えていく必要があると強く感じました。